

アコヤガイ精子の大量凍結保存方法の検討

青木秀夫(三重科技セ水), 古丸 明, 成田光好(三重大院生資), 磯和 潔(三重県栽培漁業セ), 林 政博(三重科技セ水), 川元貴由, 津田悠也, 太田博巳(近大院農)

事業規模での精子大量凍結法を開発するため, 容量の異なるストロー(0.25, 1, 2 mL)を用いて凍結したアコヤガイ精子による受精率を比較したところ, 有意差は認められなかった。さらに 10 mL の希釈精子を板状に凍結したところ, 解凍後の運動率はストロー法と同等であった。運動率が低い精子を凍結・解凍し, 通常 of 5 分間の媒精時間で人工授精を行うと, 受精率は低かったが, 媒精時間を延長することにより受精率は上昇し, 未凍結の精子と同等となった。本結果から, 本種精子を大量凍結保存できる可能性が示された。